

概要版

つなぐ、ひろがる美術館をめざして

福岡市美術館リニューアル基本計画

2012



Fukuoka Art Museum Renewal Basic Plan

福岡市美術館
FUKUOKA ART MUSEUM

I 基本計画策定にあたって



昭和54年の開館以来、福岡市美術館は、福岡市の文化芸術振興と、社会教育の拠点施設として、収集・保存、展示、調査研究などの基本的活動を継続してまいりました。同時に、さまざまな教育普及活動や、市民ギャラリーの運営、150名を超えるボランティアとの共働の推進などを通じ、常に市民に開かれた市民のためのミュージアムとしての役割を果たしてきました。あらゆる面で西日本を代表する美術館のひとつとして内外から高く評価され、その結果として、平成20年には開館以来の累計入館者2000万人を達成しています。また、平成24年度に教育委員会から経済観光文化局に移管され文化振興施設、社会教育施設としてだけでなく、これまで以上に集客・観光施設としての役割を果たすべく期待されています。

しかしながら当館は、開館33年を経た現在、施設・設備の老朽化にともない、空調設備の危機的状況や収蔵機能、展示環境の低下・劣化をはじめ、一刻の猶予もならない様々な緊急課題を抱えており、近年の学校利用の増加や、施設のユニバーサル化への要求などに対しても、十分に応えられない状況にあります。こうした緊急課題を解決し、美術館としての基本機能の回復と施設としての魅力向上を図ることにより、文化芸術振興拠点として集客交流拠点としての使命を果たすため、ここに「福岡市美術館リニューアル基本計画」を策定します。

平成24年10月
福岡市美術館 館長 錦織 亮介

Ⅱ リニューアルの方針



1 「つなぐ、ひろがる美術館をめざして」

施設・設備の老朽化・機能低下、バリアフリーへの対応不十分、利便施設の魅力不足など、さまざまな課題を解決するため、施設・設備の全面的な改修を行います。また、広報・集客・誘導機能の弱さなどを克服するため運営の刷新を行い、ハード、ソフト両面でのリニューアルを実施します。

2 「つなぐ、ひろがる美術館」とは

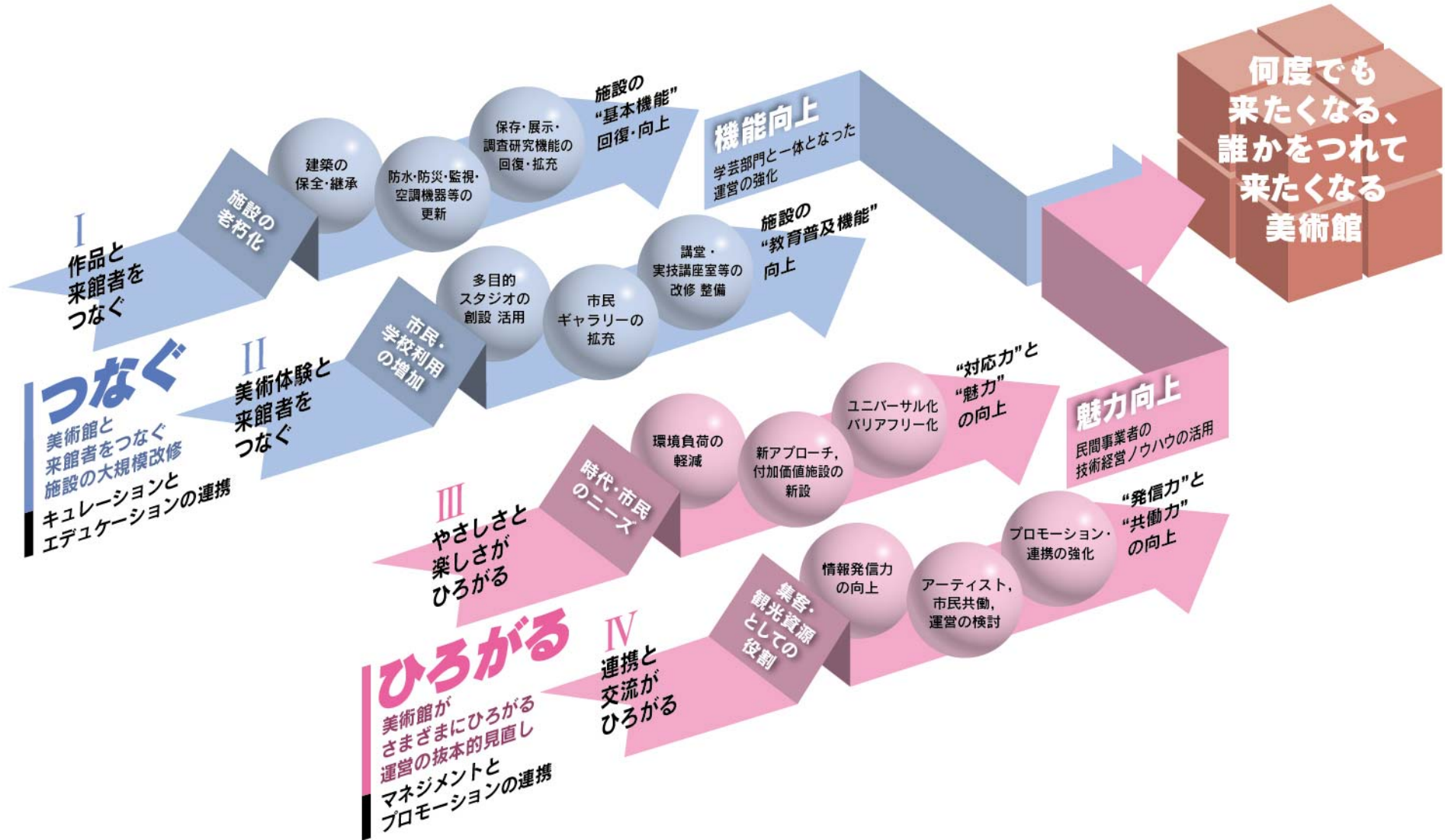
「つなぐ美術館」とは、収集・保存、調査研究、企画、展示などを通して美術作品と人々を「つなぐ」美術館の基本的な機能＝「キュレーション」と、さまざまな教育普及活動を通して美術体験と人々を広く強く「つなぐ」教育的機能＝「エデュケーション」がたがいに支え合い、融合することによって達成できる美術館の本来の姿を意味し、リニューアルにおける基本機能の回復・強化策を示しています。

「ひろがる美術館」とは、すべての人々にとって安全で快適な環境を提供し、より親しまれ、利用される美術館にしていく機能＝「マネジメント」と、美術館の様々な魅力を広く情報発信し、連携や共働を推進することによって新しい交流の場を生み出し、人々で賑わうような美術館を実現する機能＝「プロモーション」が連携することによって達成できる姿を意味し、今日的な美術館の魅力向上施策を示しています。

「キュレーション」と「エデュケーション」による「つなぐ美術館」と、「マネジメント」と「プロモーション」による「ひろがる美術館」がさらにひとつになる姿を、新しい美術館活動の理想的なかたちであると考えます。したがって、基本機能回復・強化だけでなく、運営の刷新を中心とした魅力向上施策の実現にもかなう施設改修を行います。

「つなく、ひろがる美術館をめざして」

美術館リニューアル(施設の大規模改修と運営の刷新)に向けての考え方



Ⅲ 施設の改修計画と諸室構成

施設整備計画（諸室構成）

I 作品と観覧者をつなぐ“基本機能”

設備・機器の更新とともに、以下の諸室を再編・拡充

- ①収蔵庫の改修 ②収蔵機能の拡充(格納庫の収蔵庫化)
- ③常設展示室改装・拡充 ④特別展示室の改装

II 美術体験と来館者をつなぐ“教育普及機能”

市民参加を促進するギャラリーやスタジオの拡充・新設

- ⑤多目的スタジオ・アトリエ新設 ⑥講堂・実技講座室の改修
- ⑦市民ギャラリー拡充

III やさしさと楽しさがひろがる“対応力・魅力”

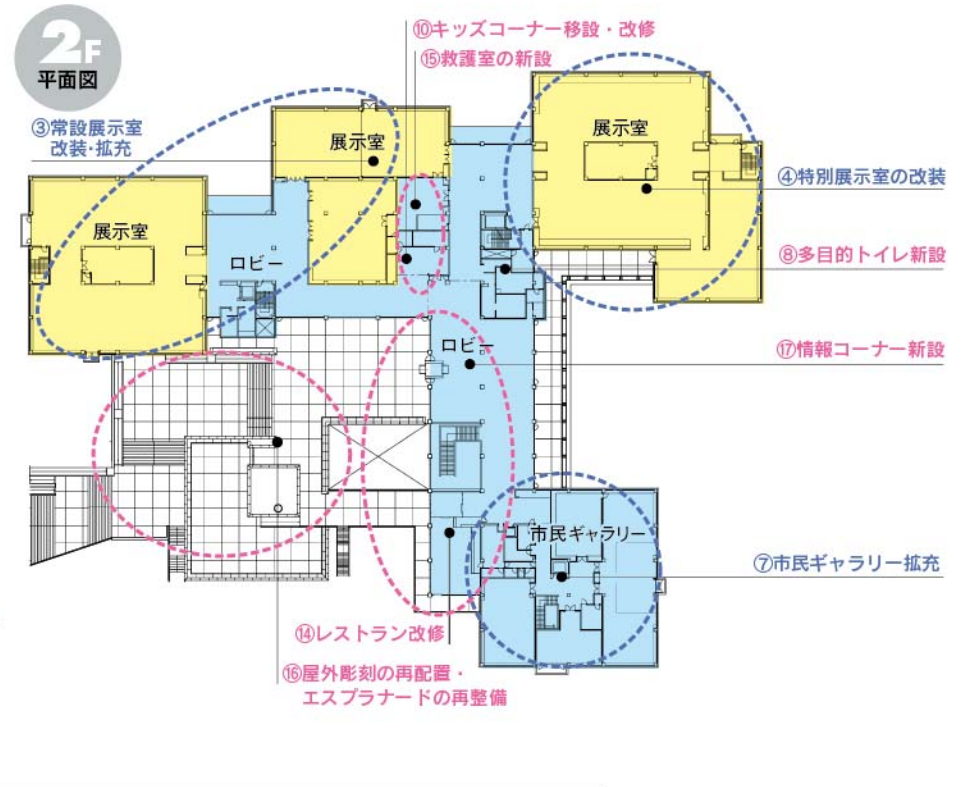
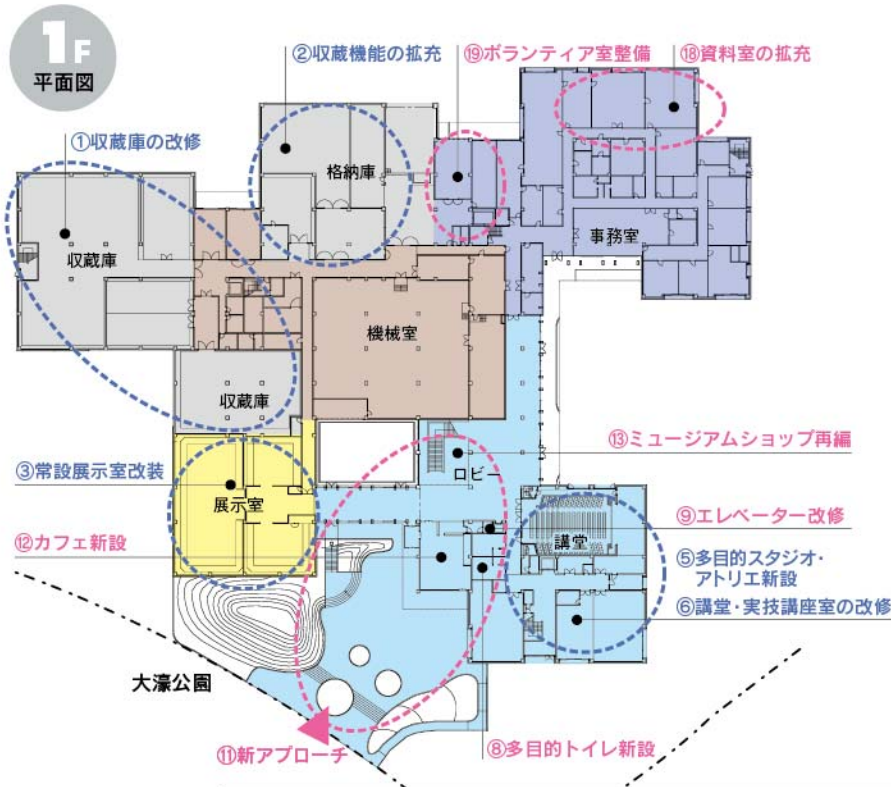
施設のユニバーサル化と利便施設の魅力向上

- ⑧多目的トイレ新設 ⑨エレベーター改修 ⑩キッズコーナー移設・改修
- ⑪新アプローチ ⑫カフェ新設 ⑬ミュージアムショップ再編
- ⑭レストラン改修 ⑮救護室の新設 ⑯エスプラナードのガーデン化

IV 連携と交流がひろがる“発信力・共働力”

情報発信力とプロモーション、連携の強化、市民共働など

- ⑰情報コーナー新設 ⑱資料室の拡充 ⑲ボランティア室の整備



「やさしさと楽しさがひろがる施設改修」

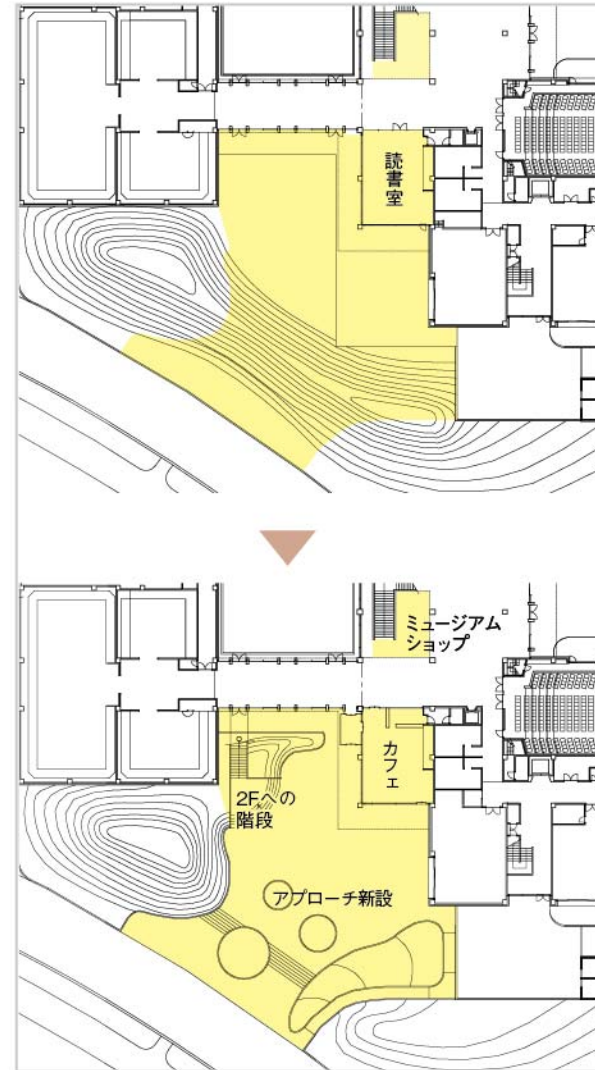
大塚公園街路からの新しいアプローチとカフェの新設、ミュージアムショップ再編による魅力向上



新しいミュージアム・ショップのイメージ図



新しいアプローチとカフェのイメージ図



IV 運営計画と事業手法



1 運営計画

厳しい財政状況のなかで、美術館は市民の財産である美術品を守り、次世代へ継承していくと同時に、より魅力ある施設として発展、進化していかなければなりません。この困難な課題に取り組むためには、新たな財源の確保や、結果的に収益につながる運営の見直しを行い、効果的な事業を展開していく必要があると考えます。

運営の効率化と魅力向上の両立をはかるため、スケールメリットが見込める民間事業者への業務委託の一元化や、委託の範囲を見直すことによる運営のさらなるスリム化などを検討していく必要があると考えます。また、民間事業者が、その技術やノウハウを遺憾なく発揮できるような収益性が見込める事業への参入の道を開くことも検討すべきであると考えます。

リニューアルによる一時的なものではなく、将来にわたって永く人々で賑わう美術館となるために、福岡市の文化行政に携わるさまざまな部局が連携しながら、市の豊かな文化資源全体をプロモートしていく体制の強化と具体的な施策の実施が必要であると考えます。

コストに見合った収益を年度単位であげることが極めてむずかしい美術館の経済効果について、たとえば展覧会事業については収益だけではなく事業の総収入も基準に加えることや、市外からの来館者の動向、館がマスメディアに露出したことの対価など、新たな評価基準による再検証を行う必要があると考えます。また評価のための調査の継続によって、美術館運営やプロモーションのあり方に対しても具体的な課題や指針が得られるのだと期待できます。

地域の文化を担う人材を育成することが美術館におけるボランティア活動の使命ととらえ、新たなボランティア育成に取り組みます。また各種の市民団体やサークル活動、大学などの教育機関又地域団体や近隣商店街・企業などとの連携も推進し、多面的な美術館活用の促進を図ることにより、新たな交流を生み出す美術館運営をめざします。

2 リニューアルの事業手法

約40億円と想定されているリニューアル工事について、今後本市の財政状況や将来の運営コスト、業務の効率性などを十分に考慮して最適な事業手法を選択する必要があります。このため、従来の方式だけでなく、DBO方式やPFI方式など官民協働事業 (PPP) による手法を検討します。